月　日 名前

／100点

【答え】

【小6】国語 文章問題　物語文 4

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

六年生の三月、ぼくたちの班は、小学校で最後の給食当番になった。白いエプロンをつけるのも、今日でおしまいだ。

配ぜん台の前に立つと、一年生のころを思い出した。あのころは、大きななべが重くて、二人がかりでもよろよろしていた。スープをこぼして、ないてしまったこともある。そのとき、上級生のお兄さんが「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言って、ゆかをふいてくれたのだ。

今、ぼくは一人でなべを運べる。おたまの使い方も上手になった。みんなのおわんに、スープを同じくらいずつ、手早く入れていく。

列の最後に、担任の先生がならんでいた。

「先生、多めに入れておきますね。」

ぼくが言うと、先生は「ありがとう」とわらった。

当番の仕事が終わって、エプロンをたたんでいると、同じ班のさとみさんが言った。

「なんか、さびしいね。」

ぼくは「べつに」と答えようとして、やめた。本当は、ぼくもさびしかったからだ。

「うん。……さびしいな。」

口に出してみると、胸のあたりが少し軽くなった。ぼくたちは、たたんだエプロンを、きちんとふくろにしまった。来年、あのエプロンをつけるのは、今の五年生だ。だれかがこぼしたら、今度は、その子たちが「だいじょうぶ」と言ってあげるのだろう。

（この問題のための書き下ろし）

問一　一年生のころ、スープをこぼしたぼくに、上級生のお兄さんは何と言いましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

だ	い	じ	ょ	う	ぶ	、	だ	い	じ
ょ	う	ぶ							

問二　「今、ぼくは一人でなべを運べる」という表現から分かることは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　なべが、一年生のころより小さくなったこと。

イ　一年生のころとくらべて、ぼくが成長したこと。

ウ　ほかの当番が、なまけていること。

イ

問三　ぼくが「べつに」と答えるのをやめたのはなぜですか。「～から」につづくように、本文から十五字までで書きぬきましょう。

本	当	は	、	ぼ	く	も	さ	び	し
か	っ	た							

問四　最後の一文で、ぼくはどんなことを思っていますか。「だいじょうぶ」という言葉を使って、五十字までで書きましょう。

自	分	が	し	て	も	ら	っ	た	よ
う	に	、	今	の	五	年	生	も	下
の	子	に	「	だ	い	じ	ょ	う	ぶ
」	と	言	っ	て	あ	げ	る	だ	ろ
う	と	い	う	こ	と	。			

【小6】国語 文章問題　物語文 4　答えと解説

問一（二十五点）　答え：だいじょうぶ、だいじょうぶ

解説：二つ目のまとまりの最後の文から。この言葉が、最後の場面にもう一度出てくる。

問二（二十五点）　答え：イ

解説：一年生のころは「二人がかりでもよろよろしていた」。それとくらべることで、ぼくの成長が分かる。

問三（二十五点）　答え：本当は、ぼくもさびしかった

解説：すぐあとの文から。本当の気持ちを口に出したことで、胸が軽くなっている。

問四（二十五点）　答えの例：自分がしてもらったように、今の五年生も下の子に「だいじょうぶ」と言ってあげるだろうということ。

解説：二つ目のまとまりの思い出と、最後の一文をつなげて読む。してもらったやさしさが、次の人へつながっていくことに気づいている。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①自分が一年生のとき、上級生に「だいじょうぶ」と言ってもらった

②今度は今の五年生が、下の子に「だいじょうぶ」と言ってあげる（受けつがれていく）